## 御館前遺跡発掘調査地元説明会資料

私たちは文化財をとおして ゆたかな滋賀づくりに貢献します。 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

令和5年(2023年)7月9日(日)/公益財団法人滋賀県文化財保護協会

## 遺跡と調査の概要

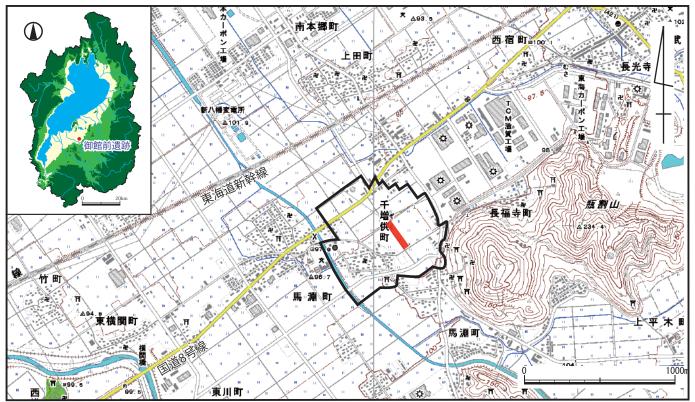
遺跡の概要 御館前遺跡は、これまでの調査により、弥生時代から鎌倉時代にかけての集落跡・郡衙跡・墓跡として知られています。遺跡範囲内には、古墳時代中・後期(約1500~1400年頃前)の古墳群である千僧供古墳群があり、県史跡に指定されています。また、本遺跡や周辺の遺跡からは奈良時代(約1300年前)の墨書土器や木簡等の文字資料が出土していることから、古代の蒲生郡衙\*関連遺跡であると推定されています。

調査の概要 公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県東近江市土木事務所が計画する近江八幡竜 王線道路整備事業に伴う発掘調査を昨年(2022年)9月より実施しており、現在も調査継続中です。

昨年度の調査では、弥生時代から古墳時代(約1800~1400年前)の人たちが住んでいた竪穴建物、鎌倉時代(約800年前)の掘立柱建物やお墓などを確認しました。これらに伴い、当時の煮炊きや盛り付けに使われた土器(弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器等)、石器(磨製石斧・砥石・台石・剥片・石槍等)などが出土しました。

今年度の調査においては、昨年度調査に引き続いて古墳時代(約1400年前)の竪穴建物と鎌倉時代(約800年前)の掘立柱建物を複数棟確認しています。これらの調査成果を通じて、千僧供町の広範囲において、弥生時代から鎌倉時代の期間、人々が建物を構えて生活を営んでいたことが明らかになりました。

\*郡衙とは:現在の「市・町」のような地域行政区分である「郡」をおさめるための役所のこと。



御館前遺跡の範囲(黒枠)と今回の調査地点の位置(赤塗)



時代区分

旧石器時代

## 令和の発掘調査における三大発見!

縄文時代

約2700年前

弥生時代

約1800年前

古墳時代

約1400年前

飛鳥時代

約1300年前

奈良時代 約1200年

弥生時代の集落を発見!



竪穴建物から出土した弥生土器 8.0m×8.5m規模の竪穴建物の 床面から弥生時代後期(約1900 年前)の土器が出土しました。土 器の表面には、2条の波線や直線 の模様帯が交互に描かれていま す。

弥生時代後期の竪穴建物群(白枠内):四角形の竪穴建物が3棟、五角形の竪穴建物が1棟、 約1200年前 計4棟確認できました。それらの中からは煮炊き具や石製の道具が大量に出土しています。

平安時代

約800年前

鎌倉時代

約650年前

室町時代

安土桃山 約400年前

江戸時代

明治時代

大正 約100年前

昭和

35年前

平成 **令**和

5年前

古墳時代の竪穴建物を発見!



竪穴建物から出土した須恵器 竪穴建物の床面から古墳時代後 期(約1400年前)の食器のフタ が出土しました。左の建物には屋 根を支える柱穴が四隅に隣接し て2か所以上あることから、2回以 上の再建が考えられます。

古墳時代後期の竪穴建物:9棟以上の建物を確認しました。建物には一辺が約3.5mと小型ものから、一辺が約6.5mと大型なものまでがあり、建物の規模に多様性があります。

## 鎌倉時代の掘立柱建物を発見!





柱穴から出土した土師皿 掘立柱建物の柱穴から鎌倉時代 (約800年前)の素焼きの皿が出 土しました。皿は穴の底より0.3 m ほど上の位置から出土しており、 建物の役目を終えた後、供えられ た物の可能性があります。

鎌倉時代の掘立柱建物(白枠内):柱穴が約2.2mの等間隔で並ぶ、掘立柱建物を7棟確認しました。写真で示した建物は、7×7mの正方形、約2×6mもしくは2×4mの長方形のものです。